

西之内町地車新調 実行委員会通信

2022 年
7 月号

新調通信に関する御問い合わせ
西之内町公民館
072-444-7712

西之内町新調地車

彫刻の物語背景と紹介（15） 秀頼公薩摩落ち

暦の上ではもともと暑い大暑の候となりましたが、西之内町の皆様におかれましてはますますお元氣でお過ごしのことと存じます。

西之内町の夏の風物詩でもあります盆踊りは、14日だけの開催で執り行われる計画で進められております。コロナ感染者が増加しているさなかではありますが、対策を講じて無事に開催できることを願うばかりであります。

さて、今月も新調地車の彫り物の場面に
ついて少しご紹介します。先月号では『難
波戦記』にて、徳川家康が半田寺山で落命
したという逸話をご紹介しましたが、敵対
する豊臣秀頼にも史実と異なる逸話があ
ります。

「花のような秀頼様を 鬼のような
真田が連れて 退きも退いたり加護島へ」
というわらべ唄が、大坂の陣のあとに庶民
の間で広がります。作者も作成された時期



謎多き大坂城

も諸説あり、何が本当かもわかりません
が、400年近くも以前に作られたわらべ
唄が現在にも残っているという事実であ
ります。複数の武将の書簡に「秀頼自刃」
について記載されていますが、難攻不落の
大坂城において、仮に城が陥落しても城主
が逃れる何かがあったのではないかと推
測するのが歴史の醍醐味であります。

秀頼は追いつめられて、逃げ場がないの

で仕方なく山里曲輪で自害し
たとされていますが、それでは
あまりにあっけない結末です。
『大坂御陣覚書』では、秀頼の
遺体について「御死骸見え分ら
ず」と記されています。『難波
軍実録』では、首はなく黒焦げ
の遺体のため、秀頼かどうか判
別がつかないとの記録があり
ます。ただ、秀吉の秘蔵であつ
た吉光の名刀と一緒にあつた
ため、秀頼だと判定されており
ますが、軍師真田幸村が豊臣方
に加わった合戦ですので、普通
には終わらせないとところが『難
波戦記』なのではないかと思わ
れます。

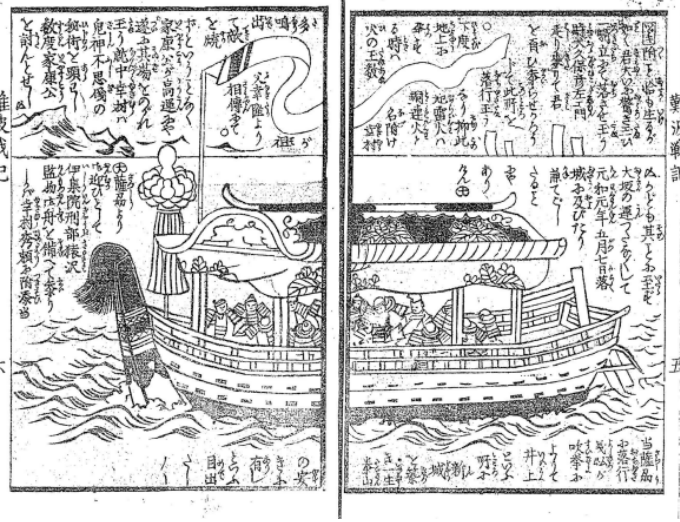
では、城の外に脱出したとす
ると、どのようにしたのでしょ
うか。大坂冬の陣での和平交渉
で外堀を埋められ、裸同然とな
った大坂城で、20万もの大群
と応戦したわけですが、どこか
に隠し通路や抜け穴があつた
のではないかと思われま

す。
幸村は後々の事を案じて落
城に備えていました。腹心の根
津甚八を呼び出し、一計を授
け、それから秀頼の御前に申し

出て「今宵、増田兵蔵を夜討に
出しましたから、かねて申し上
げておいた通り、只今から密か
に抜け穴を潜り抜け、船に乗り
薩州に落ち延びて戴きたい。某
が何処までもお供を致します」
と勧めると、秀頼もそれではこ
れより立ち退こうと用意をしま
す。

秀頼は幸村に向かい「母上と
はもはや今生の御暇乞いとなる
でしょうから、一度対面して出
発したい」と申しましたが、
幸村はこれを疎めて「母子の因
縁がある上は実にそのような別
れもありうるでしょう。しかし、
今回の事は前々から申し上げた
ように、大事の前の小事です。
母君とご対面しては万々不都合
なことになりましょう。只々お
父上の事を大切に考えて、対面
の儀はたつて思い止まって下さ
い」と言い、長宗我部も後藤も
辞を揃えて「謀事は秘密が第一
です。君がここで母君にお会い
になるなら、母君に付き従う女
儀の中に万一助名の者がいた場
合にその口から秘密が敵に洩れ
てしまえば、海上にてお命を落

とされる事必定です。それでは、ご
 自害と敵を欺き油断させた謀事も
 みな水の泡になってしまい、口惜し
 き限りです。いざ、はやくご準備を
 と勧めたので、秀頼も大いに悟られ
 て幸村の指図に従い、その夜の丑の
 刻に城内の抜け穴より旅立ちまし
 た。誉田まで落ち延びる道の途中



難波戦記挿絵 秀頼公薩摩落ち

で、伊集院刑部、猿沢監物、阿弥
 陀寺入道等、薩州の家人が道路の
 傍らに平伏しているのに出会い
 ました。家人は「かねての命に従
 い、兵庫の浦に船を着けて案内の
 ためにお出迎えに参ったのです」
 と申しました。「遠国よりわざわざ
 船を出して迎えに来たこと神
 妙である」と礼を述べた秀頼公一
 同、船に乗り込みました。その時
 の面々は、真田左衛門幸村、同じ
 く大助、長宗我部、宮内少輔、同
 じく三男右衛門三郎、後藤又兵
 衛、真田の郎等海野三左衛門、望
 月主水、笈川与八郎、穴山新兵衛、
 相木森之助、寛金六、三輪琴之介、
 月方平馬、布下弥八郎、梁田新八
 郎、斉藤佐太郎、柘植内蔵介等々、
 その人数は数百五十人と伝えら
 れ、船の鏡を解き、海波を越えて
 日ならず薩摩に到着しました。
 今でも、南薩摩には秀頼と幸村
 の墓石があり、本当に落ち延びた
 か、真相は不明です。しかし、琉
 球には真田が栄えると書いて、真
 栄田（まえた）という苗字が残っ
 ていることから、事実なのかもしれ
 れません。信じるか信じないか
 は、新調地車の彫り物をみて決め

ていただくのも、面白いかもしれま
 せん。この場面の彫り物をご期待く
 ださい。

昇魂式日程決定

昇魂式の日程が決まりました。
 2022年11月13日（日曜
 日）を予定しています。曳行時間
 等については、順次決定していく
 こととなります。

昭和11年にこの町にやつて
 きた現地車が、町内で曳行される
 最後となります。様々な形で携わ
 っていたいただいた皆様に、感謝の気
 持ちを込めた昇魂式にしたいと思
 います。どうぞ、宜しくお願い申
 し上げます。

新調地車の彫り物

進捗報告

横槌、懸魚の着手

山本師の工房では先月に引き続
 き、大脇の仕上げ作業を行っており
 ます。この部分では、通常の角度か
 らある人物が見えにくいのではとい
 う不安もありましたが、問題なく仕
 上がりが進み、安心した次第です。

木鼻に関しては、満足のいく表情が出来
 上がっております。荒彫りの段階ですが、
 山本師の表現力あふれる作品に感嘆して
 おります。

新たな工程としては、横槌、懸魚の下
 絵から荒彫りに取り掛かっております。
 横槌とは、屋根の下にある枅合いという
 部分の鉾に取り付けられる部位で、親孝
 行の教えを説いたものや、人間の一生を
 説いたものを表現する計画で進めており
 ます。また、懸魚は地車全体の表情を引
 き締める部分でもあり、下絵の作成から
 慎重にとりかかっております。

細かい一つ一つの部位にも意味を持た
 せております。ご期待ください。

新調委員の独り言

今年の祭りに対して、不安があります。
 子どもや中学生の参加がどれくらいある
 のだろうかという点です。コロナは収束せ
 ず、いまだに感染が広がる状況です。その
 中で、祭礼開催に向け、準備が進んでいま
 すが、果たして以前のように子どもたちは
 参加してくれるでしょうか。

新調地車は、そのなかで完成を迎えま
 す。子ども会や育成会をはじめ、今からで
 も祭礼団体への入会をお待ち申し上げて
 おります。祭りを一緒にやりましょう！